

## 苦小牧市の公園予定地の土壌汚染では、 王子製紙が責任認め、総入れ替えを約束

日本共産党の畠山和也衆院議員は10日の予算委員会分科会で、室蘭市八丁平(はっちょうだいら)で地域住民に不安を与えている土壌汚染問題を取り上げ、企業の社会的責任のあり方について政府の姿勢をただしました。

宮沢洋一経済産業省は「企業に社会的責任をどう果たさせるのかという観点から、今後省内で検討していきたい」と答えました。



質問する畠山議員＝10日、衆院予算委

### 企業の社会的責任―省内で検討する

宮沢経産相は、「アメリカのプログラムは初めて見させていただき、勉強になりました」「我が国は土対法で対応しているが、企業の社会的責任について、世界的なものをもう少し勉強したり、省内で検討してみたい」と答えました。



質問に先立つ今月2日、畠山議員は苦小牧市の公園予定地でヒ素が検出された問題で、松橋ちはる道議予定候補、党苦小牧市議団と現地を調査し、廃棄物を埋設した王子製紙に説明を求めました。王子製紙は「責任は当社にあり、誠実に対応する」と土壌の総入れ替えを約束しています。

### 【八丁平の土壌汚染】

2013年、室蘭市の八丁平南公園周辺から、基準値の1410倍のヒ素、23倍の鉛、フッ素、水銀化合物などの有害物質が検出されました。周辺地域は1963年から74年ころまで、富士鉄(現在は新日鉄住金)の室蘭製鉄所が廃棄物の埋め立て地にしていました。廃棄物処理法は、廃棄物を排出した事業者の責任で適正に処理するよう定めています。廃棄物が埋設された時期が法施行前であったことから、八丁平の汚染では同法が適用されません。

室蘭市と北海道は土壌汚染の原因を究明しないまま、「土壌汚染対策法(土対法)」に基づいて盛り土で対応する」としており、住民からは「表面に土をかぶせるだけで終わりか」と不安が広がっています。

# 土壌汚染の原因をつくった新日鉄住金に、社会的責任を果たさせよ 室蘭市八丁平で基準値超1410倍のヒ素 畠山衆議がただす

畠山議員は、市民団体の調査で住宅地の周辺からも基準値を超える鉛が検出され、市民の間に「どこまで汚染されているのか」と不安が広がっていることや、土地を購入した室蘭市が汚染対策に多額の税金を使わざるを得ない現状を指摘し、「新日鉄住金が率先して説明責任を果たし、汚染対策に応分の費用負担をするのが当然ではないか」と主張しました。

宮沢経産相は、「新日鉄はそれなりの社会的責任は果たしているのかなあとという気がしている」「国が何かを言うより、室蘭市がどう対応するかが大事だ」などと答弁しました。

畠山議員は、同様の事案で苦小牧市の王子製紙は汚染土壌を良質なものに入れ替えるとしていることを説明。さらに、アメリカでは法施行前にさかのぼって有害物質排出者の責任を追及する仕組みがあることなどを紹介し、「国際的な流れに照らして、(企業に責任を果たさせるための)新たな枠組みづくりが必要ではないか」と提起しました。